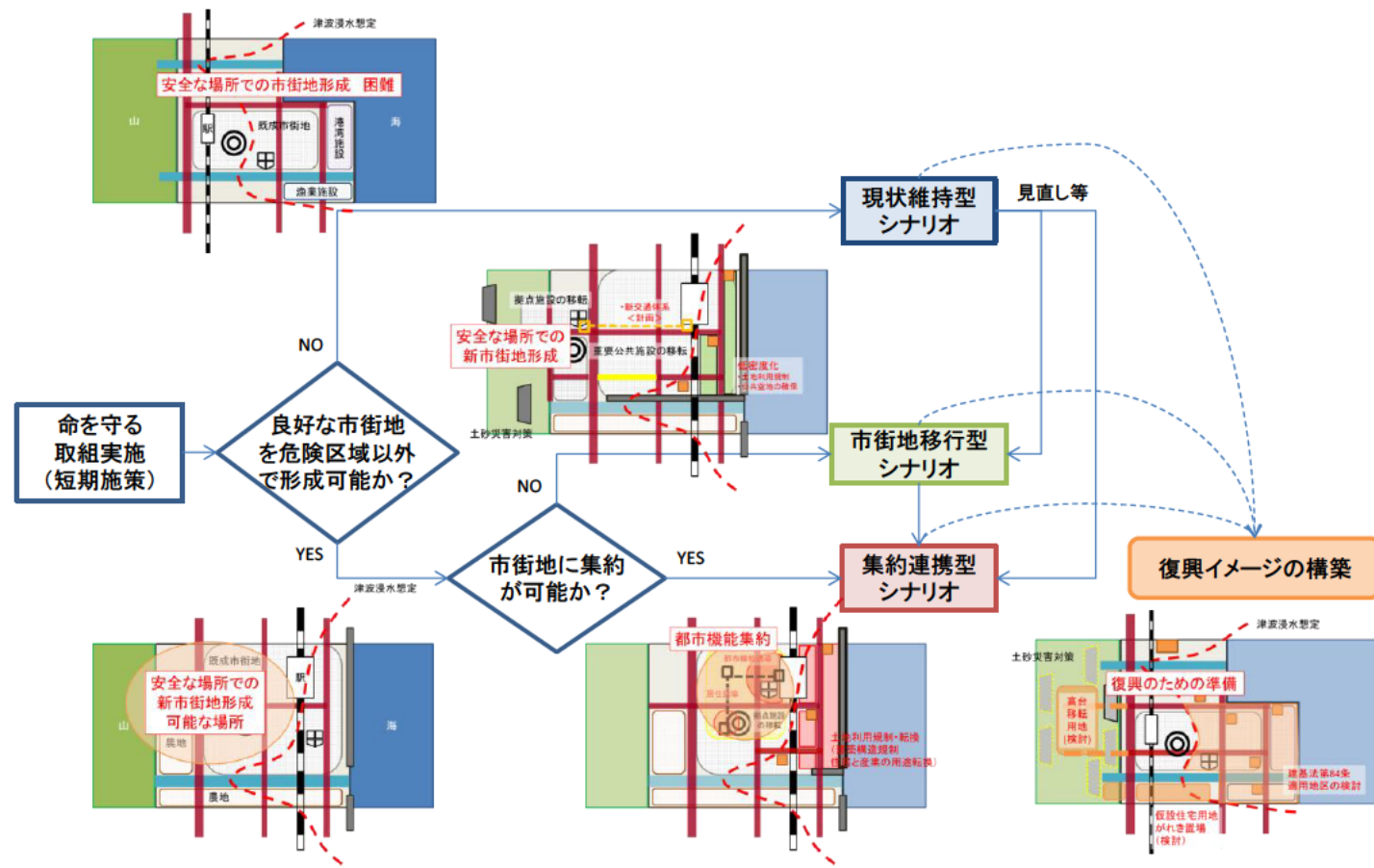


### 都市構造・土地利用再編イメージ



#### ○現状維持型シナリオ

地震・津波に強いまちづくりを進める中で、市街地形成状況や産業構造等を鑑み、津波の浸水想定区域等の危険区域以外の箇所のみで市街地を形成することが困難な状況であるため、都市構造を大きく再編することなく減災都市を目指す。

なお、防災・減災対策には限界もあり、被災後の復興も想定し各種の取組に必要な準備を進める。

また、市街地形成状況や産業構造等から現状維持型シナリオにて施策を進めても、施策実施による都市構造の成熟化が図られた場合や計画の見直し時期において、市街地移行型や集約連携型のシナリオへの展開／転換を図る。

#### ○市街地移行型シナリオ

津波の浸水想定区域等の危険区域が限定されているなど、危険区域以外での市街地形成が比較的容易な場合、一時的には市街地拡大をしながらも、市街地を移行して防災都市を目指す。

また、移行した市街地において集約型の都市再編を図る。

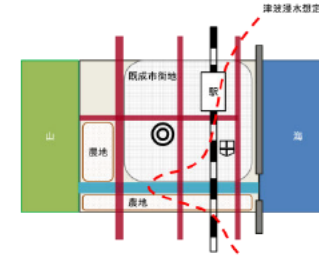
#### ○集約連携型シナリオ

津波の浸水想定区域等の危険区域が限定されているなど、危険区域以外での市街地の集約が比較的容易な場合、集約型の都市再編を促進し防災都市を目指す。

また、幹線交通体系の構築等により集約市街地の連携を図る。

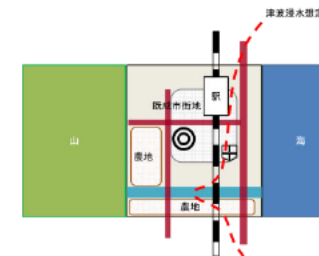
### 地理的特性別地域分類

#### ○伊勢湾沿岸地区



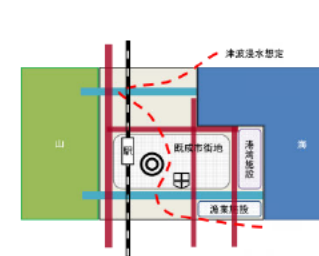
特徴：広い平地部を中心に市街地を形成、津波浸水範囲が広いが浸水深は浅めで到達時間も比較的長い。命を守る対策として津波避難施設や避難場所等の整備により一定の効果が期待される。市街地や主要交通機関が沿岸部に集中しているため、津波浸水想定区域から逃れた形での市街地形成は困難。

#### ○熊野灘沿岸地区



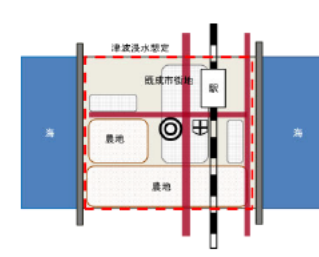
特徴：平地部は比較的狭く、背後には急峻な山地が広がるため、利用可能な土地が限られる。津波浸水範囲はそれ程広くないが、津波浸水深が深く到達時間も非常に短いため、津波避難施設や高台への避難路の整備等が急務である。市街地は、比較的沿岸部から少し離れているが、背後地の関係で利用可能な土地は限られている。

#### ○半島・島嶼地区



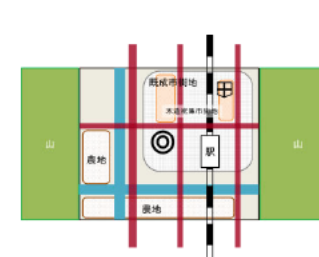
特徴：平地部が非常に狭く、背後地も急峻な地形となっているため、利用可能な土地は非常に限られる。海岸沿いはリアス式形状であり津波浸水範囲こそ限定されるが、津波浸水深が非常に深く到達時間も短いため、津波避難施設や高台への避難路、避難場所等の整備が急務である。市街地及び生業の関係から沿岸部の限られた平地に市街地が集中しており、津波被害が甚大になることが想像される。利用可能な土地が非常に限られているため、市街地形状を大幅に変更することは非常に困難。

#### ○海拔0メートル地区



特徴：平地部しか存在せず市街地の形成は低密度に展開されている。大地震発生による液状化等の影響で、津波到達前に浸水が発生する懸念がある。津波浸水深は浅く到達時間も比較的長い。即時浸水の可能性があるため、避難施設の整備と地元の防災訓練等が必要とされる。長期湛水の可能性もあり、孤立や復旧作業着手が長引くことも想定する必要がある。

#### ○内陸地区



特徴：山間部等での市街地が形成されており、津波の被害は考えられないが、地震動による被害のための対策が必要とされる。特に老朽化した木造密集地域が存在する場合は、その地区での防災対策が急務である。